



本人が物語風に綴る闘病記

44歳で甲状腺がんの中咽頭がんが見つかりましたが、
中2の娘が「大したことないやん」と言うので。

著：原 利彦（1972年 生まれ）



中咽頭がん 治療編 1 031 : ウタが作ったカレンダー。

2017年4月25日（火）抗がん剤1回目
（抗がん剤治療1/2回目・放射線治療2/39回目）

いよいよ、化学療法の開始です、つまり抗がん剤を打ちます。

今日は多忙です。ざっくりこんな感じです。

- 07:00 起床
- 08:00 朝食
- 09:00 生理食塩水+マグネシウム（腎障害予防）（点滴12時間）終了
- 09:30 放射線治療
- 10:00 嚥下のリハビリ
- 10:30 イメンド125mg（吐き気止め錠剤）を内服
- アロシキバッグ+デキサート（吐き気抑制）（点滴30分）
- 11:00 生理食塩水+シスプラチン（抗がん剤）（点滴2時間）
- 12:00 昼食
- 13:00 フィジリオ140（点滴2時間）
- 15:00 ビーフリード（点滴3時間）
- 18:00 フィジリオ140（点滴2時間）・夕食

トキは思いました。

『吐き気止めとして、ごっついカプセルを飲んで、点滴も打つて、どれほどの吐き気なのか？』

さて、抗がん剤にも色んな種類があります。



トキが打ったのはシスプラチンという抗がん剤です。臨床試験が開始されたのは1972年、つまりトキと同級生です。日本で承認されたのは1983年。まだ、25年しか実績がありません。この抗がん剤は腎臓に大きな負担をかけるため、利尿剤と水分を点滴し、さらに水を飲んで、飲んで、飲んで、おしっこを出す、出す、出すことによって腎臓への毒素を薄める、負担を軽くするということでしょうか？そんな感じでした。

出す、出すことによって腎臓への毒素を薄める、負担を軽くするということでしょうか？そんな感じでした。

抗がん剤と言っても見た目は単なる点滴です。放射線と同じく痛くも痒くもありません。

トキは、おしっこがしたくなるので、何度もトイレには行っていること以外は、まだ特に何も感じていません。元々、がん自体の実感も無いため、治っている感もありません。

トキは改めて思いました。『僕は本当にがんなんだろうか？かといって、ドッキリなはずもないか？』

夕方、ウタが手作りのカレンダーを持って来てくれました。

毎日、押していくハンコ付きです。これで、治療を終えた日はよくできました！と出来ます。ラジオ体操の出席カードのようです。けして、楽しみながらというわけにはいきませんが、日々、目標をもって治療に臨むことができます。
※画像は後日に撮影。



迷いが生じていたトキにとって、ウタからの子供らしい発想と優しさに溢れた贈り物でした。

トキは心配していた『吐き気』などを特に感じることはなく、点滴を打ちながら自然と眠りにつきました。

⇒ **032 : ウタに遺せる物を探して。**